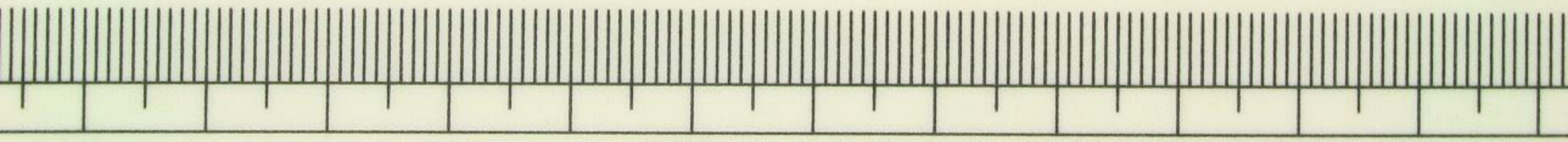


Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho). The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and expressive, typical of the cursive style. The paper shows signs of age and wear, including some dark spots and a small mark at the top center.



80

85

90

福島県



信  
夫  
君

川  
舟  
車  
吻

奥  
大  
中  
者  
之  
旅

東京市  
十七  
町  
山  
崎  
氏  
御  
手  
紙  
御  
返  
書  
御  
返  
書  
御  
返  
書



此の表面には宿所姓名を限り認むへし

宛名人の宿所は宛名よりも大書すへし

恭賀新正

明治三十六年一月元旦

近而鄰舍依り  
遠而親戚之  
目下在記  
恒居在  
清國北京北城  
分司  
廳胡同

為之務  
監事  
堂  
公  
銀

長安  
山  
辰  
之  
功

郵便はかき



宛名人の宿所は宛名よりも大書すべし

此の表面には宿所姓名を限り認むべし

日本 岩手縣 西磐井郡  
花白永 停車場 後宅

奥野 有 三 梅

D

大清國郵政總局製

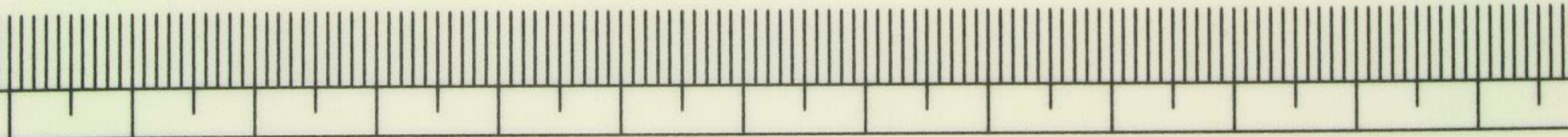


謹賀新年

一月三日

旧編起念有年

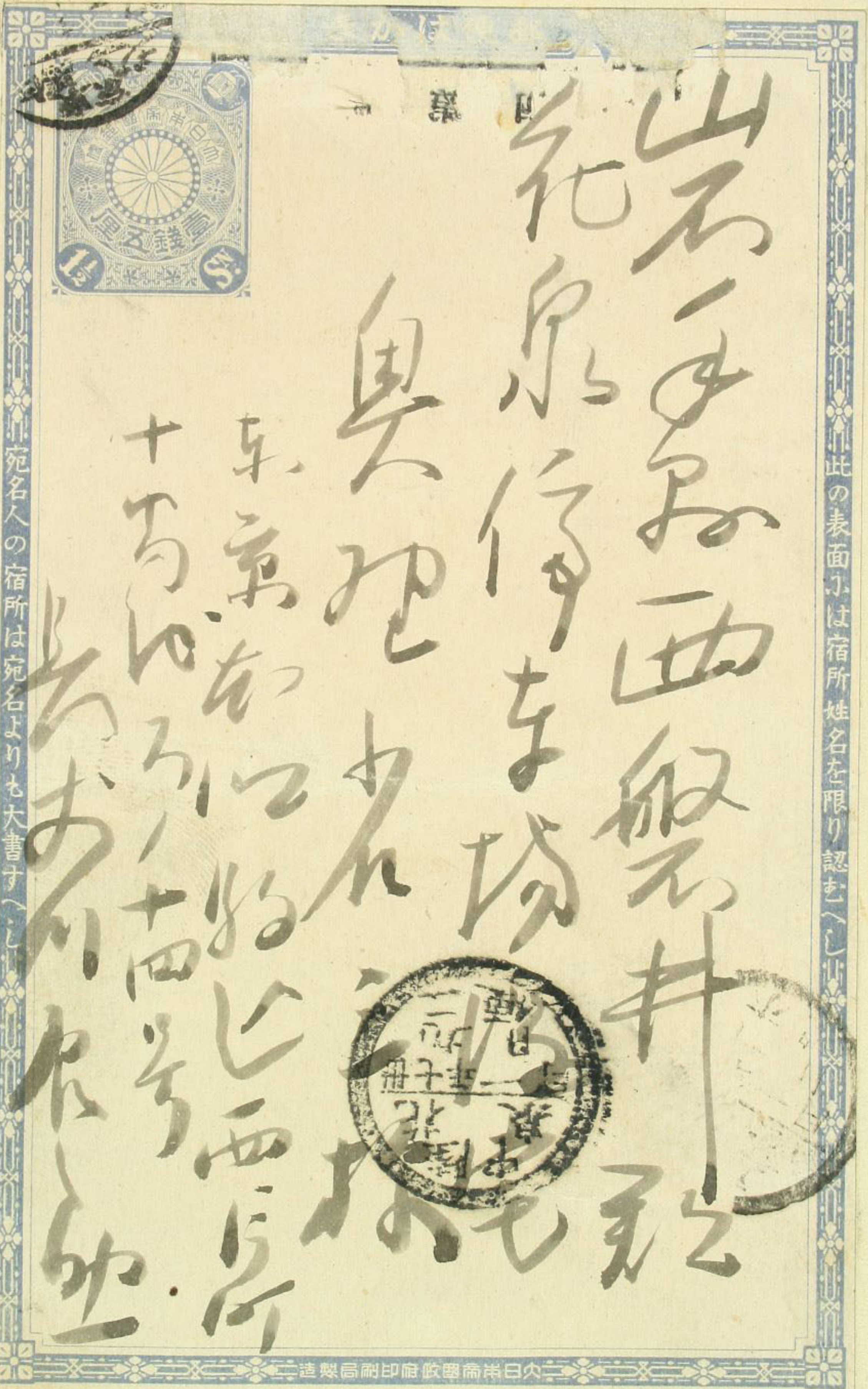
行



80

85

90

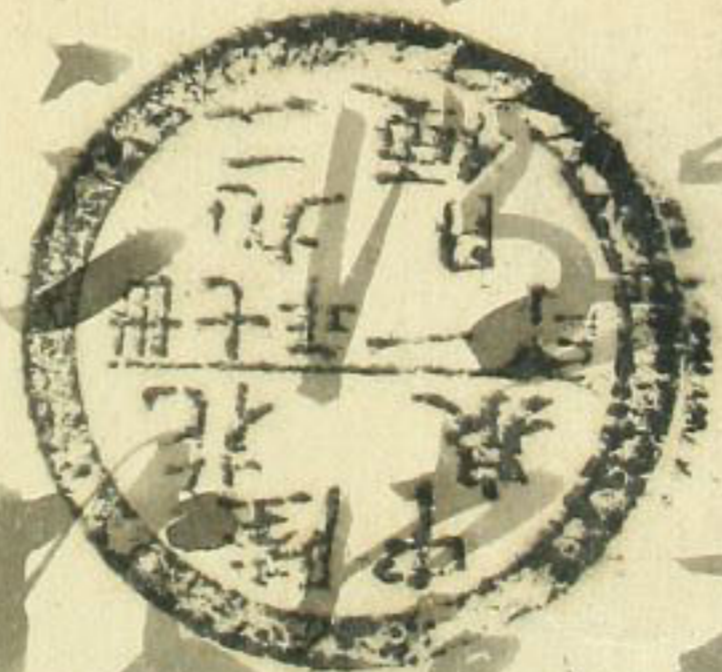


此

山石一子  
泉信  
西級  
井  
七

奥地

中



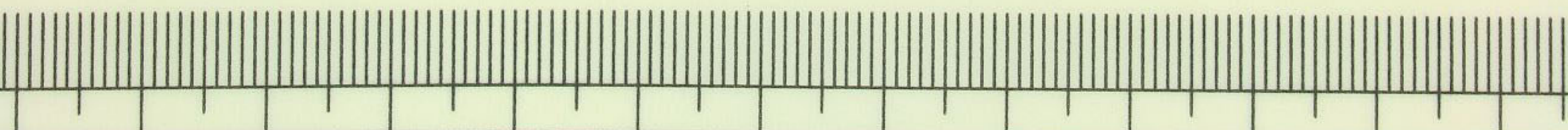
車  
十  
十  
十  
十

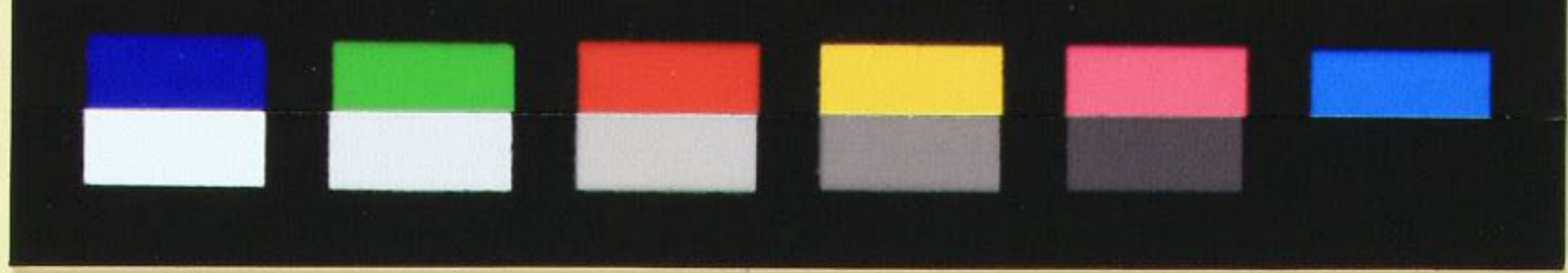
長  
長  
長  
長  
長

此の表面は宿所姓名を限り認むへし

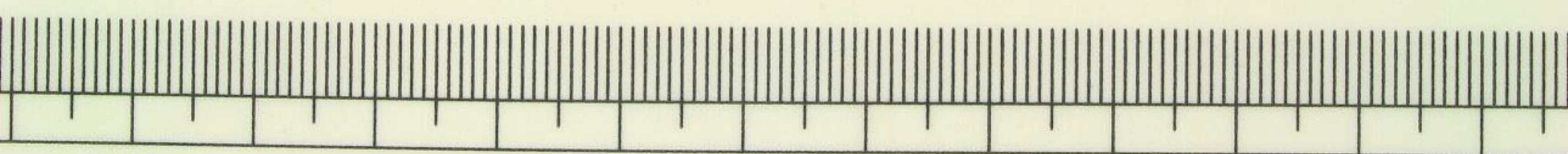
宛名人の宿所は宛名よりも大書す

造製局刷印府政國高帝日大





河津と川州の左の字  
 町長  
 本郷の地  
 十石地は、三十四石  
 小太印は、  
 十



80

85

90

郵便はかき



市川

市川区竹屋  
高十七番地  
田沼少三様

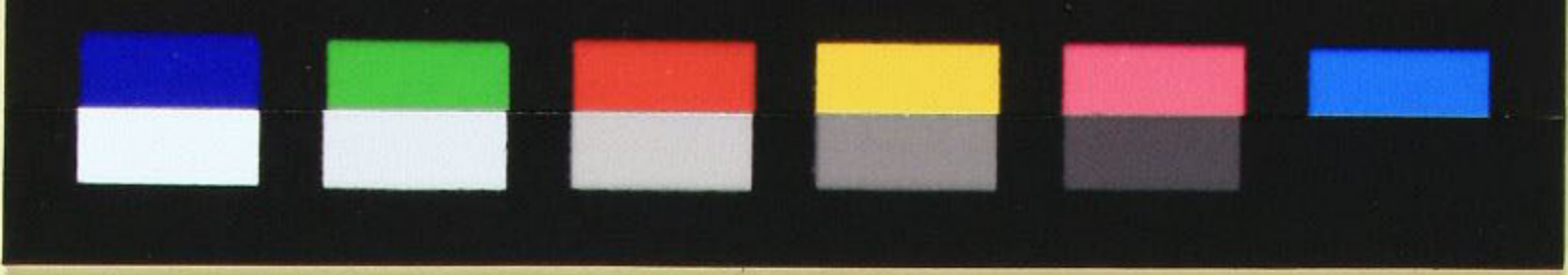
あまのなご

此の表面には宿所姓名を限り認むべし

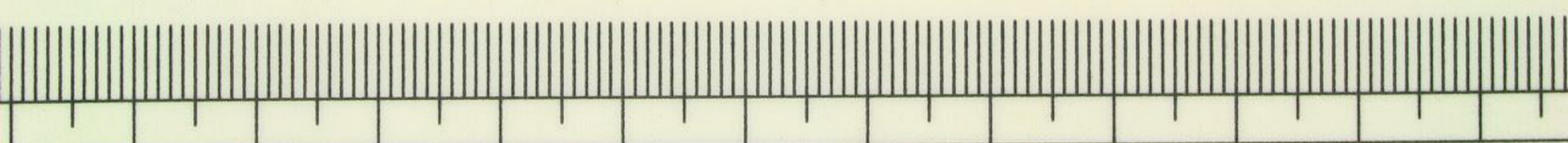
宛名人の宿所は宛名よりも大書すべし

大日本帝國政府印刷局製





心無少住此亦一の事  
 其ゆゑにいと鬼心可く遂に  
 其の行の集ふに死の念  
 不可得なり命の世に  
 其二



80

85

90

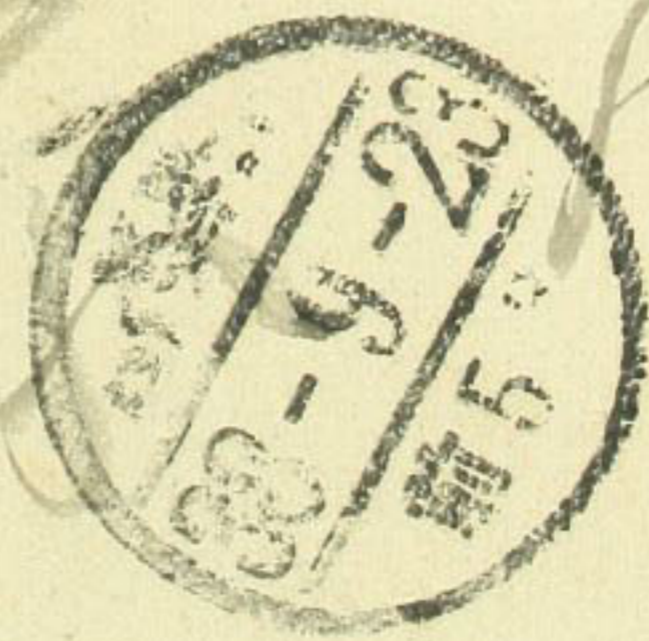


中石川に於て  
早稲

田舎に於て

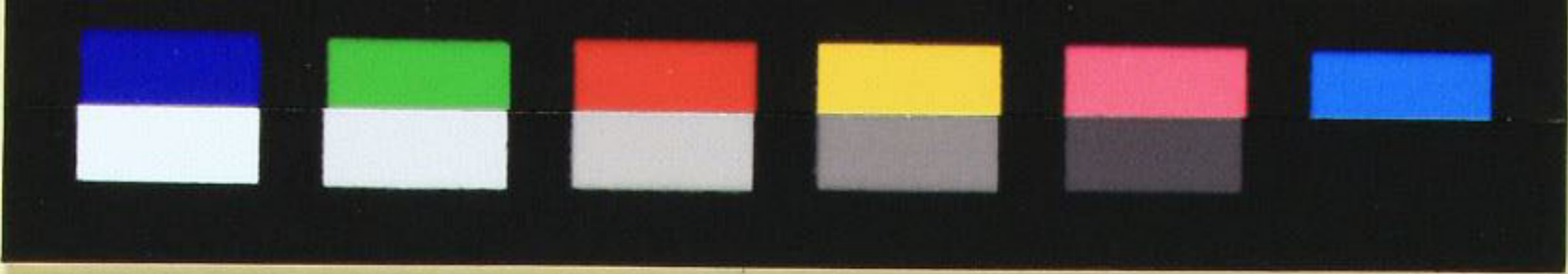
木下町に於て

早稲

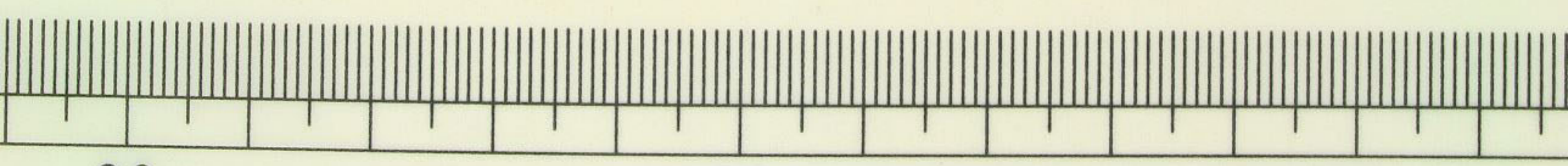


此の表面には宿所姓名を限り認むべし

宛名人の宿所は宛名よりも大書すべし



山下成子はつひ本月節而命を  
 へる昔時は何の流も妙かりし曰成  
 日四子神人向けと妙教現伝  
 成女おのれカれと往互浪舟神人  
 交衣気付又女下谷已し松少年  
 世の書<sup>ユキ</sup>也信才瓜生(海軍中尉)氣  
 付たら死くべし奇し



郵便往復はかき

(返 信)



下此由鳴取  
上物は三の四  
何

自五路  
何



宛名人の宿所は宛名よりも大書すべし

此の表面には宿所姓名を限り認むべし

大日本帝國政府印刷局製